



鈴木 政夫 議員

# 問 政権交代で町政への影響は

## 答 国予算が編成中で 事業内容が見込めない状況

**質問** 新政府が実施しようとする米戸別補償と、これまでの減反政策との違いは。また、農林業行政だけでなく、来年度地方交付税の見直しや、ブロードバンド整備事業などは、予定通り実施できるのか。その他、来年度予算編成で懸念される問題はあるのか。

**答弁（町長）** 米戸別補償制度と地方交付税については、現時点において政府予算案や、地方財政計画が未決定のため見込めない状況にあり、国の予算編成動向を見極めたい。  
また、高野地区と一色地区の光ファイバーによるブロードバンド整備事業は、国に申請書類を提出し現在審査中で、今後、交付決定を受けて今年度事業として進める予定である。

**問 「ルネサンス棚倉」改革の基本点を問う**

**答** 組織の再編、人事配置、施設の改善を図っていく



**質問** ルネサンス棚倉は、平成二十年度決算で累積赤字が三億三千万円あるなかで、経営診断を受け、経営基本計画を策定された。しかし決定打に欠けると思うが、町長の理解と決意は。  
また、東京都特別区職員互助組合の預託金の返還未済額二億三千万円があるが、町はルネサンス棚倉に対し、債務保証や損失補償を行う義務はあるのか。  
更に、町からの将来負担発生はあるのか。

**答弁（町長）** 厳しい経済環境の中で売上げを伸ばしていくため、組織の再編、人事の配置及び施設の改善も含めて、町が協力して経営の改善を図っていく。また、町はルネサンス棚倉に

対しての債務保証と損失補てんは行っていないが、将来負担は出資の範囲内で株式会社への責任を負うが、それ以外は株式会社が負うべきである。

**質問** 特別区職員互助組合からの預託金（四億円）は、何に使用したのか。  
**答弁（商工農林課長）** 経営の中で、資金運用が厳しくなった時期に一時運用したものが戻せなくなり、現在に至っている。

**問 証明書自動交付機の費用対効果を問う**

**答** 引き続き利用促進に取り組んでいく

**質問** 町役場の証明書自動交付機のリース料は年間四百万円超といわれるが、費用対効果の面で再検討との声もあるが、どのように考えているのか。

**答弁（町長）** 交付機の稼働率は、平成二十年度が九・四％で年々上昇しており、町民サービスのための必要な行政コストと認識し、引き続き利用促進を図っていきたい。



▶役場玄関に設置されている証明書自動交付機

**問 「その他の質問」 町税等の滞納者への差押さえ件数は**

**答** 今年度は二百二十件であった

(5) 平成21年12月定例会議会だより



佐川 裕一 議員

問

小・中学校インフルエンザ対策は

答

予防接種の助成を行う

質問

(1) 町内の小・中学校での感染状況は。

(2) 予防策は。

(3) 休校・学級閉鎖等による授業の遅れにどう対処するのか。

答弁(町長)

(2) 感染防止策の広報活動を行ってきた。また、妊産婦、特定疾患を持っている方、一歳から中学三年生までの幼児・児童生徒等を対象に予防接種の助成を行うことにした。集団予防接種を、郡内他町村に先駆けて、十二月十一日から町保健センターを会場に実施している。

答弁(教育長)

(1) 平成二十一年十二月九日現在の罹患者数は、小学生で三百四十四人、中学生で百四十九人。全ての小・中学校で感染が確認されている。

(3) 五校時、六校時実施により時数を確保し、教育課程の適正運営に努めている。中学校については、一学年の二クラスについては学級閉鎖が長かったことから、冬休みの一日ないし二日程度授業を実施する予定。

質問 季節性インフルエンザワクチンにも助成できないか。

答弁(健康福祉課長) 新型インフルエンザの接種状況の推移を見ながら今後対応したい。



▲新型インフルエンザで休校措置がとられた棚倉小学校

問 子育て支援及び安全対策を問う

答 四月一日子どもセンターを開設

質問

(1) 子どもセンターの具体的内容は。

(2) 放課後児童クラブの現状と今後は。

(3) 「地域安全マップ」の作成状況は。

答弁(町長)

(1) 平成二十二年四月一日の開所に向けた準備を進めている。子育てを支援し、子供たちに健全な遊びの場を与え、健康の増進と豊かな情操を育てる

答弁(教育長)

(3) 本町の小学校四校は、児童自身の危機管理意識の向上を目的に地域安全マップを作成しており、残る一校についても作成を検討中である。



▲子どもセンター開所に向けて準備が進む旧棚倉保健所

ことなどを目的とし、施設での事業は、くらびキッズ、親子ふれあい教室、子ども図書館ラビットや巡回文庫を開設し、自由来館者にも利用できる内容等で実施。また、ファミリーサポートセンターを開設して仕事と育児の両立を支援する。

(2) 現在は棚小と社川小の二箇所を実施しているが、四月からは棚小で実施をしている児童クラブは、子どもセンターに実施場所を変更する。



藤田 智之 議員

# 問 「事業仕分け」の導入は

# 答 今後の課題として検討



▲昨年国で行われた事業仕分けの状況

**質問** 行政改革の実施計画は、どのように運営されているか。他の自治体や国で行われている「事業仕分け」を町でも行っているか。

**答弁**（町長） 実施計画は、係長職による計画策定会議と、町長と三役、課長職による行政改革推進本部により進めている。これらの会議は公開はしていないが、実施状況は「広報たなぐら」に掲載している。昨年度から事務事業の評価制度を導入し、内部の評価制度ではあるが、事業の必要性や見直し、廃止などの検討を行っている。  
事業仕分けは有効な手段であるが、当分の間は実施計画の見直しと事務事業の評価制度で、良い面は取り入れ、事業の見直しを進めていきたい。  
事業仕分けの導入は今後の課題として検討したい。

**問** 図書館の改善に工夫は

**答** 子どもセンターを有効利用

**質問** 図書館の本や雑誌はどのように選定されているか。低学年への読書感想文作成の指導は十分か。図書館の改善に、工夫はできないか。

**答弁**（教育長） 本の選定は、十三名の図書モニターによる方法や図書館で直接要望を受ける方法、分類別のバランスを考慮しながら購入する方法で、できる限り利用者のニーズに合った図書の購入に努めている。  
読書感想文の募集は、作品の優劣をつけるのではなく、本に親しむことを期待している。

**質問** 高齢者や乳幼児向けの本を保健福祉センターに置いては、可能であれば預けたい。

**答弁**（生涯学習課長） 協議して

**質問** 棚高跡地の利用は、町にとって、大きなチャンスでもあり課題でもある。その後どのような状況にあるか。

**答弁**（町長） 現在修明高校ホッケー部がグラウンドを利用し、管理は機械警備で行い、週一回は外観を、月一回は内部まで点検している。  
今の建物の状況では、利用は

**問** 棚高跡地のその後の状況は

**答** 有効活用を働きたい



▲有効利用が期待される旧棚倉高校跡地

できず、解体となれば相当な費用が必要なことから、当面、県でも今の状況での管理と思われる。町としても、利活用の計画はないため、今後は県に有効活用を働きかけていきたい。

**問** 職員の飲酒運転の処分基準は

**答** 原則、懲戒免職と規定



大相 守 議員

問

町も事業仕分けを行ってはどうか

答

良い面を取り入れ 事業の見直しを行なう

**質問** 国の事業仕分けにより、町への影響は。  
 (1) 本年度予算に計上されている事業への影響は。  
 (2) 第五次振興計画事業への影響は。  
 (3) 町も、事業仕分けを行ってはどうか。

**答弁** (町長)

(1) 子育て応援特別手当の廃止となり、十二月補正予算で減額を計上した。  
 (2) 政府予算案の動向を見きわめ、県との連携を密にしながさらなる情報収集、分析に努めたい。  
 (3) 今後の検討課題として、当分の間は実施計画のローリングや事務事業の評価等の中で、事業仕分けの良い面を取り入れながら事業の見直しを行っていききたい。



▲町商工会青年部主催の交流イベント

**問** 他市町村と連携した、婚活イベントはどうか

**答** 広域的に検討したい

**質問**

人口の減少に歯止めをかける対策として効果があるのが婚活支援事業であり、その結果町に住む人が増え、町の活性化が図れると考える。  
 (1) 十年前から今年度までの出生率は、どのように変化しているのか。

(2) 人口の推移は。

(3) 男女の出会いを目的とした事業は何を行なってきたのか。

(4) 他市町村と連携して婚活イベントをすべきでは。

**答弁** (町長)

(1) 本町の合計特殊出生率(一人の女性が一生に産む子供の数)は、平成十年から平成十四年までの五年の平均が一・九三、平成十五年から平成十九年までの平均が一・七五で、県内では二番目に高い数字である。  
 (2) 平成十一年で一万六千五百九十七人。平成十六年で一万五千九百四十八人、今年の十月一日現在で一万五千二百三十一人である。  
 (3) 平成八年から平成十六年まで、棚倉町、鮫川村、東村、表郷村、浅川町の五町村で出会いを目的とした様々なイベントを実施してきた。  
 (4) 広域的な実施について検討したい。



▲町学校給食センター

**問** 学校給食で地元食材の割合は

**答** 重量ベースで四五・四%

**質問**

地産地消の取り組みについて。

(1) 学校給食での地元産食材の割合は。

(2) 地元産食材を使った給食提供を。

**答弁** (教育長)

(1) 野菜で十一品目、イチゴ、ブルーベリー、棚倉産コシヒカリがあり、重量ベースでの割合は四十五・四%である。  
 (2) 給食食材の一部に、地元産の野菜等を使用した給食提供を行っている。



角田 悦男 議員

# 問 高齢者に対する交通支援を問う

## 答 今後も調査研究を続けていく

また、高齢者が運転免許証を返還した場合、交通事故防止の観点から助成制度の考えはあるのか。

**答弁（町長）** 本町の交通支援については、平成二十一年度の路線バス補助金が、四路線で約一千二百二十万円の見込額となる。これらの交通支援についても、費用対効果の面から厳しいものと考えられるため、今後も引き続き調査研究を続ける。

また、高齢者が運転免許証を返還した場合の助成制度は、現在のところ実施の考えはない。

**答弁（企画情報課長）** 障害福祉として、タクシー利用券の助成を年三十六回行なっているが、六十五歳以上の町民全てに実施した場合、八千三百万円となる。障害者の利用実積を考慮しても、二千二百万円以上が必要となる。また、一回行なうと継続的な実施となってしまうため、慎重に検討が必要で、現在調査研究中である。

また、高齢者が運転免許証を返還した場合の助成制度は、現在のところ実施の考えはない。

**答弁（企画情報課長）** 障害福祉として、タクシー利用券の助成を年三十六回行なっているが、六十五歳以上の町民全てに実施した場合、八千三百万円となる。障害者の利用実積を考慮しても、二千二百万円以上が必要となる。また、一回行なうと継続的な実施となってしまうため、慎重に検討が必要で、現在調査研究中である。

また、高齢者が運転免許証を返還した場合の助成制度は、現在のところ実施の考えはない。



▲外出支援サービスの送迎車を利用する方たち



▲経営改善が図られるルネサンス棚倉

### 問 ルネサンス棚倉の今後を問う

### 答 経営の改善を図る

**質問** ルネサンス棚倉の経営診断を踏まえ、今後どのような運営の改善を図るのか。

**答弁（町長）** 売上げ減少は、個人客減少と比例しており、利用客数の回復が売上げ回復の足掛りになるとの方向性が示されているので、町としては、ルネサンス棚倉の経営基本計画に基づいた営業活動を積極的に支援し協力して経営の改善を図る。

**質問** 現在、建物の老朽化が進んでいるようだが、これについてはどのように考えているのか。

**答弁（町長）** 全国的には、昭和四十年代の建物が多く、ルネサンス棚倉は、平成二年オープンなので古い建物のイメージは全然もっていない。

**質問** 経営改善には、町民の理解と利用が不可欠と思われるが、町民を含めた第三者委員会的な組織を立上げて検討してはどうか。

**答弁（町長）** ルネサンス棚倉は、株式会社として経営しているもので、第三者委員会的な組織は考えていない。



宮川 政夫 議員

問

交流人口増加策を質す

答

事業効果を検討しながら促進する

**質問** 町の人口減が続く中で、交流人口を増やすことは町活性化策の一つである。友好都市、各種協議会の交流事業の現状を伺う。

(1) 友好都市川越市、国際友好都市レイクマコーリー市、スバルタ市との交流の現状と促進計画は。

(2) 東京棚倉会の活性化策は。

(3) 北関東地域との交流の現状と、新たな計画は。

(4) 広域観光ネットワークの利用実績は。

(5) スポーツ交流事業の促進案は。

**答弁** (町長)

(1) 川越市とは、ふるさと体験交流、親善剣道交歓会、ホームステイ交流といった事業を毎年行っている。

レイクマコーリー市とは、姉妹校訪問とホームステイ事業を実施しているが、人材育成基金残高の減少により、更なる交流促進は困難。スバルタ市との交流は途絶えている。(2) 東京棚倉会の活性化策は、会員が減少していることから、還暦を迎える方々を対象に入促進を図っている。

(3) 北関東地域との交流事業は、F I T構想推進協議会に参加

し、栃木、茨城県北地域に地域資源等の情報発信を行っている。今後は、F I Tブランドプロジェクト交流、二地域居住プロジェクトなどを計画している。

(4) 広域観光ネットワークの活用実績は、周辺市町村との連携による滞在型、回遊型広域観光、レクリエーションの形成を推進している。

(5) スポーツによる交流事業は、町体育協会加盟団体が大会等を開催し交流を図っている。



▶会員増強が望まれる東京棚倉会

**問** 平成二十二年度主要事業は計画通り実施できるか

**答** 国、県の動向を見きわめ対処する

**質問** 厳しい経済環境のもとで平成二十二年度予算編成について伺う。

(1) 歳入は前年度と比べ、どの程度の減少を予想しているか。  
(2) 平成二十二年度実施計画で、主要施策に変更はあるか。

(3) 公債費負担率、公債費比率は計画通りの比率を保てるか。

**答弁** (町長)

(1) 経済悪化が長引いていることから、町税に与える影響を憂慮している。中央の行財政改革などで、地方財政計画が不透明な状況にあり、予測が困難。県財政状況の悪化も伝えられており、見通しが立てられない。

(2) 臨時交付金を利用し、実施計画を一部前倒しした。

(3) 公債費負担比率は十四・三％を予想し、平成二十年度と横ばい。同じく、公債費比率は、十一・七％でこれも横ばい。



▶計画の前倒しにより改修した人工芝コートで行われたホッケーフェスティバル

平成二十二年度は、不確定要素が多く予想が困難。

**質問** 歳入が落ち込んだ時、借金を増やしても実施計画事業を実施し経済を刺激するのか。事業を見直し、財政健全化を優先するのか。

**答弁** (町長) 事業の重要度、優先順位を決めて判断する。

**質問** 借金に依存しての事業を軽減させるため、基金の増額を検討してはどうか。

**答弁** (総務課長) 財政の許す範囲内で検討する。



近藤 悦男 議員

# 問 公共建造物破壊防止策を問う

## 答 防犯カメラの設置も検討

**質問** 公共建造物の破壊防止について、町はどのように対処していくのか。

また、現在までの被害総額と、今後の具体的防止対策方法は。

**答弁**（町長） 亀ヶ城公園や時の鐘ポケットパークに設置される公衆トイレ、施設において、年に数回、建物や設備を破壊される被害が発生している。被害状況を発見した場合は、その都度、警察署へ被害届を提出しているが、人物の特定には至っていない。

今年度における現在までの被害件数は三件で、被害額は十五万四千百三円である。

今後の防止対策は、町内夕刊紙や町広報紙を通して周知する。さらに、年間を通して頻繁に破



▲破壊防止対策を検討する亀ヶ城公園公衆トイレ

損被害が発生するのであれば、警察署と相談の上、防犯カメラの設置も検討する。

**質問** 町の公共物が壊され、マスコミ記事は「町では警察へ被害届を出すか検討中」とあったが、検討中では甘いのではないのか。

**答弁**（建設課長） 明らかにいたずら、もしくは故意を確認した場合には、被害届を出している。また、自然の条件により壊れる場合もあるので、慎重に対応している。

**質問** 今後、不当な行為を発見した場合には警察に通報し、厳重に対応すべき。

**答弁**（建設課長） 基本的には被害届を出し、警察署に具体的な対策を相談していく。



▲大会で力投する棚倉町選手

## 問 市町村対抗野球大会の助成を問う

### 答 今後、増額を検討したい

**答弁**（町長） この大会の出場には、参加費や交流会費、交通費が必要なため、町としては予算の範囲内で補助金を交付している。

現在のユニフォームは個人の所有物で対応しているが、そろえたいとの要望もあるため、棚倉町をアピールし、郷土愛の醸成、スポーツの振興を図る観点からも、今後検討したい。

**質問** 地域活性化、地域連携、体育の振興など多面にわたる効果が期待され、夢と勇気を与えるのがスポーツである。

こうした観点から、市町村対抗軟式野球大会に町を代表して出場するため、助成金の必要性を伺う。



松本 英一 議員

問

政権交代で事業と予算に支障は

答

国の予算編成の動向を見きわめたい

**質問** 政権交代で国の予算見直しによる町事業への影響と平成二十二年の予算編成に支障はないのか。

また、太陽光発電設置の当町の支援対策は。

**答弁** (町長) 子育て応援特別手当は、政権が交代し事業の廃止が決定したため、本議会に修正予算を計上した。今後、国の予算編成の動向を見きわめ、情報の収集に努める。

太陽光発電補助の国補助制度が四年ぶりに再開したことによる独自の補助制度を、平成二十二年から二十四年度までの三年の期限つきで計画、計上した。内容については、一キロワット当たり三万円、四キロワット十二万円を上限として補助を行う。

**答弁** (企画情報課長) 実施計画では上限十二万円、年間十戸、百二十万円を予定し、それ以上の場合には補正で対応したい。

**問** 東京電力超高压送電線の氷塊落下対策を問う

**答** 今後も東京電力と必要に応じて協議・要望する

**質問** 東京電力超高压送電線からの氷塊落下対策で、危険箇所すべてに融雪線の取りつけを早急にすべきで、今度の対策には不備がある。

**答弁** (町長) 今回の落水雪対策は、富岡三森線のほか四箇所において実施した。

富岡三森線については融雪線を取りつけ、それ以外の四箇所については難着雪リングの間隔



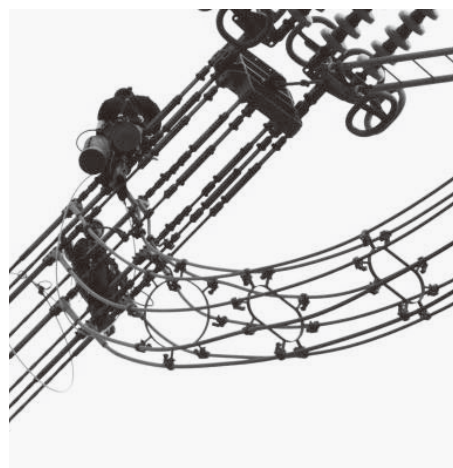
▲民家の敷地に設置された太陽光発電

**問** 金沢内運動広場のトイレ設置を問う

**答** 平成二十四年度事業に計画計上

縮小による対策を講じ、東京電力の責任のもとに安全性が高められた。

東京電力の安全対策予算にかかわらず必要な要望はする。



▲難着雪リング設置工事 (福井板橋線)

**質問** 第五次町振興計画の二十二年からの実施計画で、金沢内運動広場のトイレ建築場所及び様式はどうなるのか。

**答弁** (教育長) 本年度策定の実施計画において、平成二十四

年度事業に計上され、設置場所については、競技者の利便性から広場に近い部分で、この付近には民家がなく人目につきにくいこともあるので、防犯上の課題なども考慮しながら選定する。

建物は木造平屋で男女別とし、男子用は大小各一個の便器と手洗い、女子用は便器一個と手洗いを見込み、合併処理浄化槽などによる水洗化を考えているが、地元関係者と十分協議を行いながら進めていく。